

## 令和5年度 第4回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

### 【会議概要】

- ・日 時:令和6年3月27日(水)14:00～15:30
- ・場 所:和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・欠席者:青野委員、小柴委員、加納委員、檜垣委員、松下委員、小川委員、藤間委員

### 【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
  - 1) 地域公共交通計画策定事業について
    - ・前回からの修正及びパブリックコメント募集結果
    - ・地域公共交通計画案概要版及び本編
  - 2) 阪和線西 AI オンデマンド運行計画策定事業について
    - ・住民ワークショップにおける新たな公共交通導入に向けた検討とりまとめ案
4. 報告
  - 1) 槇尾校区 AI オンデマンド交通事業について
    - ・チョイソコいずみ利用実績（令和6年2月分）
5. その他
  - 1) コミュニティバス時刻表マップ（令和6年4月改正）

### 【議事概要】

#### 1. あいさつ

森吉委員長：本日はお忙しい中、ご出席いただき、また本市の公共交通行政をはじめ、市政にご協力いただき感謝申し上げます。4月からライドシェアが一部解禁され、国によると法改正が不要な範囲で実績を作りながら効果検証をしていく段階で、6月までに方向性を示していくとのことだ。また一方、大阪府では、大阪・関西万博に合わせて来訪者の移動手段確保に向けた独自の取組を検討しており、この動きにも注視している。公共交通分野では、コロナ禍による乗務員不足や 2024 年問題への対応、燃料費高騰などの様々な問題が生じている。今後、交通事業者と関係機関の連携が更に必要となってくるため、ぜひ、引き続きの協力をよろしくお願ひしたい。本日は、議案として「地域公共交通計画策定事業」と「阪和線西 AI オンデマンド運行計画策定事業」について、報告として「槇尾校区 AI オンデマンド交通事業」があり、皆様には多様な観点からご審議いただきたい。

## 2. 委員紹介

(省略)

## 3. 議案

### 1) 地域公共交通計画策定事業について

(事務局より資料1、2の説明)

伊勢副委員長:事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

(特になし)

伊勢副委員長:特に意見が無いようであるので、承認いただいたとして良いか。

(一同了承)

伊勢副委員長:地域公共交通計画については資料の通りで、事務局は今後の作業を進めてほしい。

### 2) 阪和線西 AI オンデマンド運行計画策定事業について

(事務局より資料3の説明)

伊勢副委員長:事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

中田委員:説明内容は、住民ワークショップでの意見をとりまとめたものとして理解した。

当初は阪和線西側の公共交通が利用しにくいエリアでの議論だと聞いていたが、泉大津市や阪和線東側も含まれた運行区域のイメージであり、路線バスやコミュニティバスと競合しないよう、配慮する必要があると思うが事務局の考えは。

事務局:資料はワークショップの意見をまとめたものであり、あくまで検討中のものだ。実際の運行計画の立案にあたっては、交通事業者等と協議しながら、検討精度を高めていきたい。

中田委員:住民が便利なものを求めるのは理解できるが、既存の公共交通の存続に配慮しながら、検討していく必要がある。

岩佐委員:路線バスの発着頻度が高い和泉府中駅周辺で運行する場合、バスの発着に影響がないように検討する必要がある。

事務局:具体的な乗降場所までは検討しておらず、実際の運行計画の立案にあたっては、警察や関係者と丁寧に協議し、決定していきたい。

伊勢副委員長:今回はあくまで住民意見のとりまとめであり、影響を受ける交通事業者との協議はこれからとのことだ。なお、運行区域図に公共交通までの徒歩圏を加えると、競合状況も確認できるだろう。また、泉大津市のコミュニティバスの相互利用は、どのようなイメージか。

事務局:泉大津市が運行する巡回バスには泉大津市民しか乗車できないため、相互利用により、両市民が多方面に移動できるようになるイメージである。

辻村委員:住民ワークショップの参加者はどのように選定したのか。老人クラブでは話を聞いておらず、公共交通の利用が多い高齢者の意見が反映されているのか。また、今後も検討会をするのであれば、連絡が欲しい。

事務局:ワークショップの人選については、該当校区の校区長と協議し、校区長からの推薦や民生委員の協力などにより編成した。今後の検討にあたっては、いただいた意見を参考にしたい。

伊勢副委員長:人選については、今回のやり方でもよいが、問題意識の高い方に声掛けする方法もあるだろう。今回の取組は回覧したとのことだが、その際に呼びかけをしてもよかったのではないか。

事務局:第一回のワークショップ開催通知で通知者以外の参加者も募集をした。なお、継続参加を前提としたため、その後は開催通知のみとした。

伊勢副委員長:この資料案の方針の通りでの検討について、承認いただけるか。

(一同了承)

#### 4. 報告

##### 1) 榎尾校区AIオンデマンド交通事業について

(事務局より資料4の説明)

伊勢副委員長:利用者数や利用回数から想定するに、1日あたり10人程度の利用で、往復利用であるなら1日あたり5人程度が使っている規模感であろう。調査結果として特に知りたいことは、今回の導入によるポジティブ・ネガティブな影響であり、ポジティブなものでは個人が運転せずに生活できる環境、ネガティブなものでは路線バスへの影響などがあるだろう。5人程度であれば路線バスへの大きな影響がないかもしれないが、バス事業者として気が付いたことはあるか。

岩佐委員:2月は一年のなかでバス利用が少ない時期であり、また、規模感からも目立った影響は感じていない。路線バスへの乗り換えが多いこともあり、動向について注視していきたい。

伊勢副委員長:時期については指摘の通りであろう。評価指標を設定しているが、登録者数も評価指標となっていたか。

事務局:評価指標となっている。登録者数が評価指標に比べて伸び悩んでいる。指標を継続的に確認しながら、来年度の第1回委員会で議論していきたい。

伊勢副委員長:私が乗合タクシーの導入検討に関わった他都市の事例では、無償期間中に周知活動としてニュースレターを発行していた。榎尾校区においても、利用促進策として地域の方に実績データを伝えるなどの取組を検討してほしい。

中村委員:利用頻度が1回の方が多いが、理由は分かるか。

事務局:榎尾山への訪問利用の影響と想定される。

岩佐委員:路線バスへの乗り換えの多さも、榎尾山への訪問利用の影響なのか。

事務局:そのように思われる。

伊勢副委員長:利用者アンケートでは、目的地を把握していないのか。また、生徒・児童の利用について、無償期間が終わったら利用されなくなる可能性はないか。

事務局:目的地は予約時に把握した降車場所であり、目的地と概ね一致するだろう。生徒・児童の利用は、横山小学校の児童が下校時に利用していた影響である。なお、児童が利用する際は保護者が事前予約しており、4月以降の継続利用については実績を見ながら確認していきたい。

伊勢副委員長:クロス集計により、誰がどこに行っているのかなども、今後整理してほしい。また、何かあれば次回の報告の際にもご意見いただきたい。

## 5. その他

事務局:来年度4月よりコミュニティバス「めぐ〜る」の運行方法に変更があり、ルート図及び時刻表を新たに作成したので、参考に配布する。市の施設等に配架しており、市民や利用者に周知を図りながら対応している。

## 6. 閉会

事務局:本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の和泉市公共交通活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

### 【会議の様子】

